



最新の賃貸経営お役立ち情報

USAGI通信



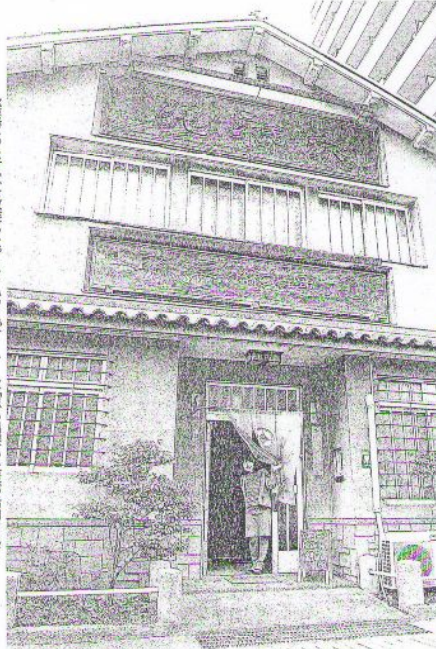
賃貸住宅 仲介・管理のコンプライアンス企業
学生ハウジング 3215.CO.JP

No. 527 2011年3月30日

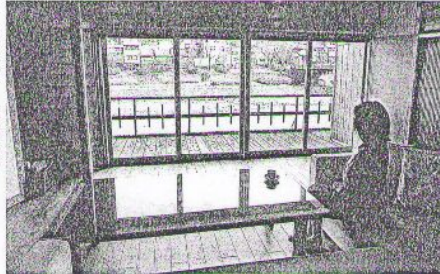
町家改装の宿 好評

京都新聞

2011年3月9日(水)



改装した町家を改装したゲストハウス「オナー」は、思い出したい社屋が活用されて、うれしいと評判。京都市下京区錦橋



鴨川が目の前に眺められる一棟貸しの宿。旅行客だけでなく、密をもちやすいため、地元客の利用も増えつつあるという京都市下京区錦橋町家

一棟貸しなど多彩

京に暮らしているような気分

京町家を改装した宿泊施設が観光客の人気を集めている。京都市内各所には、一棟を貸し切れる宿からベッド単位で手軽に借りられるゲストハウスまで、多彩な形の宿が増え、家族連れや女性一人旅、外国人観光客が利用している。「京都に暮らしているような気分が旅ができる」というのが人気の理由の一つという。減りつつある町家の活用法としても注目が集まっている。

3月上旬、京都市下京区のゲストハウス「鏝屋」に青藤奈緒（左京区）で雑貨屋に行ったり、商店街の下町風情を楽しんだ。観光といえど、普段の休日のもようだと語らう。

鏝屋は、旅好きというおみの上取選手さんが、女性一人でも安心して安く泊まれる場所を、と2009年3月にオープンした。家族や友人で泊まれる個室のほか、女性限定のドミトリ（相部屋）がある。手洗いシャワーは共同だが、部屋はエアコン装備で快適だ。外国人の利用が多いゲストハウスの中では、日本人の比率が高くなり、5回近く訪れるリピーターもいる。

「お帰りなさい」という気持ちで迎えます。一日中宿でゆっくりしたり、自転車が出かける人も多かったです」と語ります。

「お帰りなさい」という気持ちで迎えます。一日中宿でゆっくりしたり、自転車が出かける人も多かったです」と語ります。

「お帰りなさい」という気持ちで迎えます。一日中宿でゆっくりしたり、自転車が出かける人も多かったです」と語ります。

「お帰りなさい」という気持ちで迎えます。一日中宿でゆっくりしたり、自転車が出かける人も多かったです」と語ります。



五花街の一つ、鴨川町に面した町家を改装したゲストハウス。1階の共有スペースでは、見知らぬ旅行者同士が言葉を交わし、友人になることもあるという（京都市東山区・楽園）

「ここ数年、京都市内で町家を改装したゲストハウスや宿泊施設が増えています。素泊まり1泊2500〜3000円程度のドミトリや個室6000円程度で借りることができ、安価な宿から、4〜5万円以上の一棟を貸し切る鴨川沿いや祇園にある高級なタイプまでさまざまです。1階が西陣織の工房になった職住一体型の宿もある。町家を改装した宿泊施設は、増えつつある町家の保存にもつながっている。一棟貸しの宿を手がける会社「鹿」（下京区）は「減っていく町家を残し、次世代に文化を伝える」と、03年に事業を始めた。オーナーが町家を借り受け、改装して運営する。3棟からスタートし、

「ここ数年、京都市内で町家を改装したゲストハウスや宿泊施設が増えています。素泊まり1泊2500〜3000円程度のドミトリや個室6000円程度で借りることができ、安価な宿から、4〜5万円以上の一棟を貸し切る鴨川沿いや祇園にある高級なタイプまでさまざまです。1階が西陣織の工房になった職住一体型の宿もある。町家を改装した宿泊施設は、増えつつある町家の保存にもつながっている。一棟貸しの宿を手がける会社「鹿」（下京区）は「減っていく町家を残し、次世代に文化を伝える」と、03年に事業を始めた。オーナーが町家を借り受け、改装して運営する。3棟からスタートし、

「ここ数年、京都市内で町家を改装したゲストハウスや宿泊施設が増えています。素泊まり1泊2500〜3000円程度のドミトリや個室6000円程度で借りることができ、安価な宿から、4〜5万円以上の一棟を貸し切る鴨川沿いや祇園にある高級なタイプまでさまざまです。1階が西陣織の工房になった職住一体型の宿もある。町家を改装した宿泊施設は、増えつつある町家の保存にもつながっている。一棟貸しの宿を手がける会社「鹿」（下京区）は「減っていく町家を残し、次世代に文化を伝える」と、03年に事業を始めた。オーナーが町家を借り受け、改装して運営する。3棟からスタートし、

「ここ数年、京都市内で町家を改装したゲストハウスや宿泊施設が増えています。素泊まり1泊2500〜3000円程度のドミトリや個室6000円程度で借りることができ、安価な宿から、4〜5万円以上の一棟を貸し切る鴨川沿いや祇園にある高級なタイプまでさまざまです。1階が西陣織の工房になった職住一体型の宿もある。町家を改装した宿泊施設は、増えつつある町家の保存にもつながっている。一棟貸しの宿を手がける会社「鹿」（下京区）は「減っていく町家を残し、次世代に文化を伝える」と、03年に事業を始めた。オーナーが町家を借り受け、改装して運営する。3棟からスタートし、



喫茶店に旅行者の常連集う

観光客の「暮らす旅」を後押しするのは、宿泊施設だけではなく、下京区の喫茶店「御多福珈琲」が20年前から年何回も京都を訪れ、北区の大徳寺近くにある町家ゲストハウスに泊まり、同店に通った。

宿のスタッフは家族のよき存在となり、店では友人が増えた。「神社には行かず、友達とお茶を飲んでおしゃべり。来るたびに観光しなくなった」と話。2年前、京都に移住、大徳寺近くのマンションに住みながら働き、店に通う。「『暮らす旅』から『旅する暮らし』に変った」と話。

弊社管理物件（烏丸五条町家物件）が2011年3月9日付け京都新聞にて紹介されました。記事のとおり、貸し手、借り手そして旅人、いずれもが喜びに包まれています。まさに「三方よし」の精神です。町家、古民家等の有効活用をお考えのオーナー様がいらっしゃいましたら、ぜひ弊社へお声がけください。